

足利風 -ashikaga-fu

2019
4月号
Vol. 61



©Ayako Abe

イラスト：あべ あやこ

足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時

〒326-0051

栃木県足利市

大橋町1丁目2006-3

TEL 0284(44)7311

FAX 0284(44)7312

mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集！
- *TOPICS
- *私のボランティアことはじめ
- *サークル紹介
- *インフォメーション
- *センターからのご案内

* ばさらの宴 *

イノシシ歳生まれのビートたけしが、自著「さみしさの研究」の中で、ボランティアについて書いている。～ボランティアしようという気持ちは素晴らしいけれども、大事なポイントは“自分がその現場に行ったら何ができるのか”がわからないといけない・・・と、ボランティア活動の核心を、例によってビートたけし流に喝破している。一芸に秀でた人間の語る言葉は重い。

華道家の安達瞳子さんが、桜守・佐野藤右衛門さんとの対談で“花は生かすもので挿すものではない”と言っている～「花の命と、自分の思いとが一瞬重なる時がある。そこをぱっととらえて生けたい！」。

桜といえば、南北朝のバサラ大名・佐々木道誉が大原野で、巨大な花瓶を用いて桜の大木をあたかも立花のようにしつらえ、一斤もの名香を焚き、近隣の多くの人たちを夢心地にした話も有名だ。金剛石(ダイヤモンド)に由来する“ばさら(婆娑羅)”大名・佐々木道誉。南北朝の騒乱時の混沌とした時代に、破天荒な振る舞いをする中で、時代の流れを見据える冷徹な視点を持った道誉。



自由気ままなようで、新興の商業勢力を使いこなすなど既成の常識を毀す道誉が、現代のイノベーションの先駆けのように見える。かの白洲正子は、“ばさら”がほんものの文を創った、と語っている。

かつて足利でも、北の旅荘の満開の桜の中で、“ばさらの宴”という酒だけを酌み交わし、数百年の古庭園で山海塾のパフォーマンスを楽しみ、最後は百人ほどが爛漫の桜の下で集合写真を撮る、というお遊びをしたことを思い出す。まっこと、ほんものの文化は、混沌というものを“ばさら”という流儀でブレイクスルーしてこそ、生まれるものかも知れない・・・と、思う。(M生)

* 足利源氏棟梁の和歌を詠む *

1月23日(水)午後、20名ほどの参加者で、上記テーマで、なんでも相談室が開催された。講師は多方面に造詣の深い清水弘一さん。

足利源氏の棟梁たちは、日本の武家の棟梁であるとともに、和歌を好む文化人であった。室町幕府を開いた尊氏やそれ以前の義氏などなど。また、金閣寺の義満。そして、銀閣寺の義政の審美眼が桁違いであり、後の北斎や光琳を産んだ日本文化の素地は、義政の慧眼・美意識に遡ると思われる。足利源氏の棟梁たちの教養は、日本文化の源泉である・・・と。足利人として目から鱗のひとつときとなった。

* NPO とまちづくり *

安藤 正知



はじめまして、の方も多くいらっしゃると思います。
宇都宮市まちづくりセンターの安藤と申します。足利市民活動センター鈴木さんからのお声かけで、このたび「NPO がまちづくりをマネジメントする」というお題の投稿をさせていただきます。

さて、私が NPO と関わるようになったのは 2002 年のこと、社会人大学生として NPO・NGO の勉強を始めたのがきっかけでした。当時の私は、営利企業とは違う組織形態として「成長、発展、競争」という言葉とは無縁（少なくとも量的な意味で）の非営利組織に注目していました。NPO はその使命を実現することが目的であり、組織を大きくすることは第一義の目的ではないのだと。そのような組織をいかにマネジメントするのかにも興味があったのです。それはいまだに大きな課題でもありますが。

その視点から最近気になっている言葉が「都市間競争」です。競い合いながら、より住みやすいまちを目指すことは素晴らしいことですが、「選ばれる＝他の地域から人や資金を呼び寄せる」ことを重視しすぎるきらいがあります。国全体が、高齢化と人口減少に直面している現状では、どこかの人口が増えることは、どこかが減ることを意味する、つまりゼロサムゲームを行うことになります。行政が目指すまちづくり（行政も非営利組織ですが）では、ほとんどの自治体が人口流出に悩む中で、「わがまち」における人口減少をいかに食い止めるか、が大きな焦点となります。人口が資金力でもある以上、致し方ないことです。一方で、NPO が目指すのは、そこ（量的拡大）から離れた部分にあると思います。高齢化が進み人も減り、今までと同様の生活が難しくなった地域であっても、暮らし続ける人はいます。他との比較ではなく、その人たちがこれからの年月をどう過すのか、現状活用できる資源を最大限に使って実現する（マネジメントする）ことが NPO に求められるまちづくりだと考えます。地域の最適化が全体の最適化へとつながることを祈って。

* レッドハイビスカス *

鷲頭 恵美子

私達はハワイアンバンドとして約 10 年前に結成しました。
編成はスチールギター、ギター、ウクレレ、ベース、ボーカルです。
ハワイアン以外にもポップス、ラテン、歌謡曲なども取り組んでいます。
最近フラのグループと一緒に祭りなどのイベントや介護施設などで演奏活動をしています。
お客様も私達も共に楽しめるライブを心がけています。

① インフォメーション ①

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。
どうぞ、お気軽にご参加ください。

★ 4月19日(金) PM2:00～4:00

* 本 : 「吾輩は猫である」(夏目漱石)

* 案内人: 日下部 悲天 さん

* ひとつこと: 「吾輩は猫である。名前はまだ無い。」という書き出しで始まる、ご存じ夏目漱石の初めての長編小説です。中学校の英語教師・珍野苦沙弥の家に飼われている「吾輩」の視点から、珍野一家やそこに集う人たちの人間模様が風刺的・戯作的に描かれている。～今回は、この本を中心として、漱石全般にわたる解説をしたいと思います。

★ 5月11日(土) PM1:00～3:00

* 本 : 「木喰(もくじき)」(立松和平)

* 案内人: 鈴木 光尚 さん

* ひとつこと: NHK美の壺「円空と木喰」や柳 宗悦「木喰上人」などでの高い評価で知られる「幻の木喰上人」。五穀(米・麦・豆・あわ・ひえ)と火食を断つ木喰行者にとりついた「のみとしらみの会話」。不思議な彫仏・全国行脚の修行。亥年生まれ立松和平の快心作。郷土の田中正造から道元・良寛へと至る立松和平の足取りを辿りながらの小さな旅を、一緒に！

■会場: 足利市民活動センター

■参加費: 無料

■お問い合わせ・事務局: 足利市民活動センター ☎44-7311

* センターからのご案内 *

☆みんなの広場 ～ 4月・5月のご案内 ～

- * 四季のはなやぎ 風景写真展 4月 1日(月) ～ 4月 11日(木)
- * 創作人形展 4月 15日(月) ～ 4月 25日(木)
- * 木彫仏像と地蔵 展 4月 30日(月) ～ 5月 16日(木)
- * 陶と日本画の邂逅 展 5月 20日(月) ～ 5月 30日(木)

☆相談室 & 講座のご案内

- * 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照
- * 講座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

* 編集後記 *

足利風創刊から10年、皆さまのご協力を賜り、61号を発行する事が出来た。この10年を振り返ると、大震災や豪雨・台風・噴火・・・辛すぎる災害が多かった。平成から新元号へ変わる今、良い節目となって好転してほしいと願う。(しおぱん)